

地域のための景観マネジメント研究ワークショップ
Architecture of landscape and environment management for region

第1回WS議事録(案)

日時：2008年6月7日(土) 17:00～18:00

場所：北海道大学放送大学北海道学習センター小講義室

出席者：別表参照

議事：

1. 設立意図説明

代表佐々木葉先生から

別紙1に基づいて

- ・土木計画学のなかで立ち上げることに意味があるWS
- ・景観以前に都市計画や地域計画の問題では？
- ・土木計画学も閉塞感が
- ・ひょっとすると、両者(景観Gと計画学G)の考えていることは表裏？
そろそろ新しいパラダイムへ

2. 本日のセッションの統括

セッション1 『景観研究の拡がり』 司会：田中尚人

- ・朝一番から、多くの人が詰めかけた
- ・福井さんの幅の広い話題、大西さんの異分野からの切り込み、
藤井さんの「身近で、自分たちでできることから」というスタンス、
笠原さんの「分かり易い、分かり難い」景観という問題提起など

セッション2 『都市・地域研究と景観』 司会：田中尚人

- ・機器のトラブルで、全体討議ができなかった
- ・地域を対象に、特に後半の長野の事例研究は多くの質問を集めた
- ・「そこそこのデザイン」をローカルな問題として許容するのか、許容できないのか

セッション3 『生活景と歴史的環境』 司会：柴田久

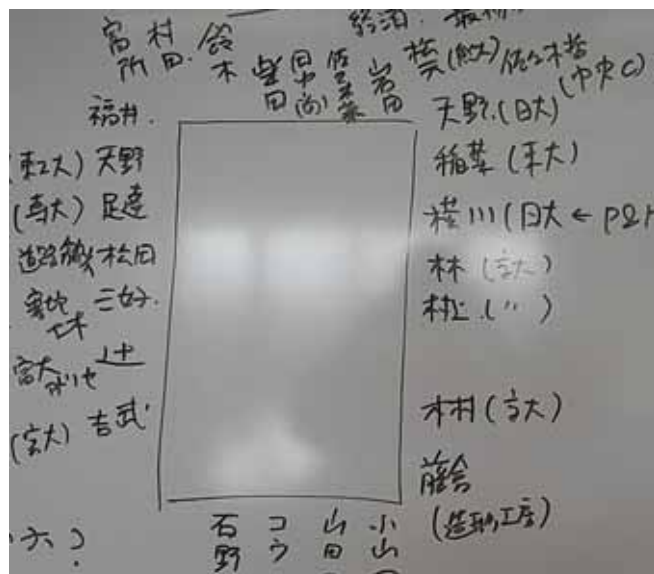
- ・一見景観の問題ではないような問題も景観研究として扱える
- ・文化的景観などを含め、法制度や実務と多く絡む歴史的環境の景観的課題が存在する

セッション4 『景観に対する意識と空間操作』 司会：柴田久

- ・テーマの幅が広く、難しかった
- ・実務的課題とローカルルールとの落とし処

1. 景観研究の拡がり【4編】	
福井 恒明	景観行政推進に必要とされる研究課題について
大西 正光	都市景観ガバナンスに関する一考察
香川 太郎	商店主の景観改善行動に対する態度変容に向けた心理的方略の研究
笠原 知子	地域景観を語る共通言語
2. 都市・地域研究と景観【5編】	
山田 圭二郎	地域づくりにおける景観政策の内在的展開力に関する研究
砂川 尊範	プレイス・マーケティングに基づく景域・文化圏の形成 瀬戸内の風景と場所性を活かした海園都市構想を例として
樋口 綾	中心市街地の場所性とアフォーダンスに関する実証的分析
佐々木 哲也	長野県におけるセルフビルドによる基盤整備の意義と可能性
内藤 誠一郎	地方都市郊外田園地域の効果的・効率的土地利用 都市整備構想に関する方法論的研究
3. 生活景と歴史的環境【5編】	
柴田 久	防災まちづくりに向けた古地名呼称の活用可能性に関する基礎的研究
松元 里紗	熊本市大井手における里川景観形成に関する研究
稲葉 一考	丘陵地小河川における流域景観の構成要因について
辻 喜彦	歴史的空間整備を契機とした市民活動の醸成プロセスに関する研究 -油津地区・堀川運河再生事業と通り名社会実験の事例-
石野 紘平	歴史的景観の保全策の効果に関する考察～奈良市を事例として
4. 景観に対する意識と空間操作【4編】	
小松 佳弘	景観保全に及ぼす大衆性の破壊的影響に関する実証的研究 -オルテガ「大衆の反逆」の景観問題への示唆(2)-
山崎 俊夫	模型製作による町並みデザインコードに対する意識の分析
三好 達夫	道路付属施設の設置方法から始める道路景観向上に関する一考察
清水 玄輝	フラッグを活用した街路の修景方法に関する研究

3. 自己紹介



4. 今日の反省と今後のスケジューリング

天野：中村良夫先生が言っていた「略画的都市像」を思い描くことになるのか？

尚人：例えば、「間にある都市」のような普通の都市の景観をどうしていくのか？

葉：いいと言われている都市だって実は危ない

今日の発表を全て、取り込んでいけるとも思っていない

しばらく、こういう風にやっていくので、来る者拒まずで

葉：山田・藤倉の旧開田村の研究，山崎・秀島の町並み実験の研究，が面白かった

まっとうなことをしていけば，その結果が景観として結実するのではないか

なりたい目標像，地域イメージを思い描くことが大切

そのための研究の手法，ツール．まずは問題意識の共有．

葉：勉強会ゲストスピーカー候補

- | | |
|-------------------|----------------|
| ・ランドスケープエコロジー | 横山秀司先生（九州産業大学） |
| ・イタリアの風景計画 | 宮脇 勝先生（千葉大学） |
| ・モデル化 | 羽藤英二先生（東京大学） |
| ・Spacial planning | 後藤春彦先生（早稲田大学） |

尚人：ソーシャルキャピタル研究などは，どうか？

柴田：ソーシャルキャピタルは，使い方によっては危ないと考えている

山田：行政担当者の奮闘に期待している．戦略の必要性を感じつつ，
景観は結果であるとも感じている

吉武：ソーシャルキャピタル研究はまちづくり的な方向へ向かっているのではないか？

将来を「見る」ために，地域の略画的都市像を「信じる力」としてのSC

福井：まずは，全体像を見たい

葉：DEEPな景観研究は，景観・デザイン研究発表会でやればいい

総士：はじめは間口が広い方がいいのではないかな？徐々に，経済学的な視点も披露したい

藤倉：公共経営，もとは景観の仕事を何でも

いま景観は，意識しないで壊れていく．

逆に意識しなくても良くなることもあるのではないかな？

まず，社会がどのような構造になっているのか知りたい

葉：事例研究WS候補地： 恵那市（岐阜県）

尚人：中村良夫，天野，葉先生方と行った 郡上市（岐阜県）や

文化的景観を中心に景観計画をお手伝いした 天草市（熊本県）

辻：まず景観から入る，というような仕事はない

全て，地域をどうするかから，活性化に繋がらないと仕事にならない

横山：観光，景観いろいろ切り口はある

地域にとっての幸せとは何か？

天野：普通の町が「いい町」なのか？美しいとは？

みんなが happy に暮らしたい

「こういう町になるんだ」という目標像を共有するために

葉：荒川区の都市マス（ほぼ全て準工）で感じたこと

思い切って「地域のイメージを描いてみる」ということが大切



今後

- ・ 今日これから懇親会
- ・ 議事録は、関係者に送付
- ・ 東京を中心に活動
- ・ 科研費などの資金獲得
- ・ 計画学の際に活動する